令和6年度「私のおすすめの1冊」

No.	月分	書名	著者	出版者	コメント
①	3	幸福な食卓	瀬尾まい子	講談社	心があたたかくなります。
②	3	春よ来い、マジで来い	足立 紳	キネマ旬報社	倉吉出身のブギウギのシナリオライターブレイクする前の暗黒の時代の自伝的小説
③	3	おわりのそこみえ	図野 象	河出書房新社	重くハードなストーリーを軽やかに書かれた快（怪）作
④	3	指先から旅をする	藤田 真央	文藝春秋	音楽家のエッセイとして小澤征爾、山下洋輔以来のおもしろさ
⑤	3	汽車・水車・渡し舟	橋本 正夫	日本文教出版	むかしの鉄道の風景などを見たいという方におすすめ（岩美町関係では岩井町営軌道）
⑥	3	通い猫アルフィーの軌跡（シリーズ編）	レイチェル・ウェルズ訳 中西 和美	ハーパーコリンズ・ジャパン	飼い主を亡くし、ひとりぼっちになった猫アルフィーが、住む場所を求めて”通い猫”として生きていく物語です。様々な事情を抱えた住民たちとの出会いが、お互いの心を解きほぐしてくれる、心温まる作品です。猫のささいな仕草や、猫側の視線で書かれているところと、文章も短いチャプターですので、読みやすいです。世代を問わず、沢山の方に読んでもらいたいおすすめの一冊です。
⑦	3	少年と犬	馳 星周	文藝春秋	最後は涙が止まりませんでした。
⑧	3	羊と鋼の森	宮下 奈都	文藝春秋	ピアノ調律の奥深さに、まっすぐな外村くんにとても引き込まれました。
⑨	4	レーエンデ国物語	多崎 礼	講談社	令和6年本屋大賞ノミネート作品 ファンタジー好きなら絶対に読んでほしい一冊。 世界に引っ張り込まれ、気がついたら「レーエンデ人」になっているはず。
⑩	4	東京バンドワゴン	小路 幸也	集英社	昭和の時代、大家族（時には知人も）が居間に集まり、その都度起きるできごとを解決していく話題を現代に合わせています。”生きるとは・・”のひとつの考え方を示してくれる本です。
⑪	4	かたばみ	木内 昇	KADOKAWA	血の繋がりはないけれど、戦後のなか家族になって・・・ 本当に感動しました。
⑫	5	烏は主を選ばない（シリーズ編）	阿部 智里	文藝春秋	この本は、勢力争いに巻き込まれながらも、その組織の中で二転三転して、自分が進む道を選択していく少年が主人公の物語です。 烏に転身できる和風ファンタジーで、ミステリーなところがある話の続きが気になる1冊です。
⑬	6	十二単衣を着た悪魔 源氏物語異聞	内館 牧子	幻冬舎	フリーターの青年が雷に打たれて『源氏物語』の世界にタイムスリップし、光源氏を敵対する女御（継母）に仕え、成長していく物語です。新しい視点で書かれた作品に興味を惹き付けられました。
⑭	6	天山の巫女ソニン①～	菅野 雪虫	講談社	児童書コーナーに置いてあるからとあなどるなかれ。大人になってしばらくたった私が読んでもおもしろくて、あっという間に外伝まで読んでしまいました。ソニンと周りの人々の成長に勇気をもらえます!!
⑮	6	ホワイトアウト	真保 裕一	新潮社	ミステリーで最後まで楽しめました。人を思う心も伝わってきて、感動しました。
⑯	7	紙つなげ!彼らが本の紙を造っている 再生・日本製紙石巻工場	佐々 涼子	(株)早川書房	10年前に出版された書籍で、東日本大震災で被害にあいながらも、製紙工場の再生に奮闘していく従業員の人たちのお話（ノンフィクション）です。ひとり一人が何ができるのか考えさせられた一冊です。
⑰	7	もう誘拐なんてしない	東川 篤哉	文春文庫	やくざの娘と共謀して狂言誘拐をする主人公。そこから、まさかの殺人事件に発展し、シリアス展開・・・になると思いきや、コメディ満載の作品でした。「謎解きはディナーのあとで」の作者さんです。
⑱	7	俺の残機を投下します	山田 悠介	河出文庫	自分とまったく同じ頭なのに、性格がまったくちがっておもしろい。
⑲	7	オー!ファーザー	伊坂幸太郎	新潮社	父親が4人いる少年が主人公という設定がまず面白くて、その少年と父親4人が巻き起こすコメディあり、サスペンスありの物語がとっても面白いです!!
⑳	8	じゅげむの夏	最上 一平	佼成出版社	学校の図書館でかりてよんでみたらおもしろかった。
㉑	8	ワンダー	R・J・パラシオ	ほるぷ出版	愛にあふれています。
㉒	9	カゲロウデイズ	じん（自然の敵P）	KADOKAWA	人気クリエイターじんさんの書く本はアニメ化しており曲と本が似ていて二度たのしめる本となっております!
㉓	9	横浜駅SF	いすかりゆば	KADOKAWA	横浜駅が増殖するという奇妙な設定でとてもおもしろくひきこまれました。
㉔	10	クラウディアの祈り	村尾 靖子	ポプラ社	戦争時の実際あった事考えられない生地獄を歩んだ蜂谷さん夫婦ぜひ一読を・・・・・・・・。
㉕	12	方舟を燃やす	角田 光代	新潮社	話の舞台が岩美町なんです!何十年か前の岩美町の事が書かれていて懐かしかった。今の岩美町はFree🚲で有名ですが、「なぜかいい街一泊旅行」池内紀著にも書かれていたのを思い出しました。他にもあったら読んでみたいと思いますので情報を持っておられるは教えてください。（投入箱に入れてください。）
㉖	1	祖国とは国語	藤原 正彦	新潮文庫	「祖国とは国語なり」この閃光的アフォリズム!これ、数学者たる著者の結論にしてわが国、国語 教育界への至誠溢るる建白なりけり

㉗	2	大間違いの織田信長	倉山　満	kkベストセラーズ	鳴かぬなら殺してしまえホトトギスの例にある信長のイメージとはまったくちがう信長像について述べている　歴史ではなく経営学の観点もおもしろい。また、軍隊の「号令.命令.訓令」での性格づけが一番おもしろい。はたして信長はどれ？秀吉は？家康は？
㉘	2	森にあかりが灯るとき	藤岡　陽子	PHP研究所	舞台は特別養護老人ホーム「森あかり」 日常的に発生するトラブルを解決するため利用者、介護スタッフ、経営者、第三者それぞれの立場での考え方がしっかり示されているところが共感出来ました。入所希望を出したいです。
㉙	2	桜風堂ものがたり①②	村山　早紀	PHP研究所	―
㉚	3	ぼくは戦争は大きらい	やなせたかし	小学館	やなせたかしさんが自分の体験した軍隊や戦地について、自分の考えをまじえながら語っています。 とても興味深く読みました。
㉛	3	やなせたかしのおとうとものがたり	やなせたかし	フレーベル館	早くに父親を亡くし、複雑な兄弟関係になってしまった弟、千尋への思いをストレートに語った散文詩。兄弟が一緒に過ごした幼い頃の思い出に、胸がジーンとなりました。